



# 三育学院中学校

2020年10月号

## 三育教育の前提

三育学院中学校は、自粛期間も終わり、寮内と授業時のマスク着用義務は解除されました。校外からの講師による授業の際や大学生と施設を共有する食堂への入室の際のマスク着用義務は、継続されますが、中学校のみのプログラムでは、コロナ以前の教育活動を行うことができるようになり、安全な環境の中でのびのびとした学びの機会を提供できておりますことを皆様にご報告いたしますと共に、



10月4日バレーボール大会

これまでのご協力に心より感謝申し上げます。キャンパスでは、今後も極力外出泊を避けることで、安全な環境を維持することを目指しておりますので、お子様のやむを得ない外出泊や保護者やゲストが来校なさる際などには事前にご家族の健康チェック等の所定の取り組みをお願いすることになります。これらの対応は今後も必須となりますのでご理解くださいますようお願いいたします。

さて、三育教育を行っているすべての学校が前提としていること、すなわち人という存在をどのようにとらえているのかについてジョージ・ナイトの著書「永遠に至る教育」の中に次の3点が挙げられています。

1. アダムは肉体的に、精神的に、そして霊的に神に似せて造られた。
2. 人間が造られた目的は創造主の栄光をなお一層明らかに反映するものとなることにある。
3. 罪のために人の体力は弱くなり、知的な能力は低下し、霊的な眼は曇ってしまった。

キリスト教的な価値観は、まず、人が創造された時、神様は人を全人的に神様に似せて造られたという前提に立っています。つまり、人は初め最も良い状態に造られ、神様を崇め、賛美し、栄光を輝かせることが創造された目的であったとしているのです。しかし、そこに罪が入ってきたために現在の人は体力、知力は共に衰え、霊的な目も曇ってしまっている状態にあるという前提で人とらえています。ですから、生まれた子どもは、無垢で純粋な存在ではなく、そのままにしておけば、この中の3.の傾向が強まっていく、つまりすべての人が罪を犯す傾向を持っているとしているのです。そして、教育するということは人の状態を創造当初の完全な状態に回復させることを目指して、一人ひとりに全人的に調和ある開発を行っていくことにあるとしています。

本来、子どもたちの持つあらゆる面での能力を最大限に伸ばしていく営みには、家庭と学校の協力と、それを支える環境の整備が不可欠です。子どもと親と教職員と、そしてそれを取り囲む環境を構成するすべての方々のたゆまぬ関わりと努力が、人を変革し、創造当初の神に似せて造られた存在としての輝きを回復させることに近づけることになるのです。私たちはそう確信して、日々教育の業に携わっています。

校長 尾上 史郎

**神は人を創造された日、神に似せてこれを造られ、男と女に創造された。  
創造の日に、彼らを祝福されて、人と名付けられた。**

創世記5章1,2節